

## 自己点検・評価について

- ① プログラムの自己点検・評価を行う体制 神戸市立工業高等専門学校自己評価委員会(以下、自己評価委員会)

(責任者名)	柿木 哲哉
(役職名)	副校長・教務主事(研究)

- ② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p><b>【意見】</b> 都市工学科において、本プログラムを構成する科目は、全て必修科目で設定されており、履修に関しては都市学学科学生全員(除く、編入学生)が履修できるようになっている。また、修得に関しては、進級認定会議、および、教務委員会において単位の履修状況、および、単位修得状況を確認している。単位が取得できていない学生は次年度以降に再評価にて修得し、卒業時には全員(除く、編入学生)が修得できる状態になることについても確認している。</p> <p><b>【評価結果】</b> 実施している。</p>
学修成果	<p><b>【意見】</b> 本プログラムに関わる構成科目は、全て必修科目として1年次～5年次まで設定されており、現時点では、令和4年度以降に入学した学生が、履修している状態であるが、今後、全学生(除く、編入学生)が5年次までに履修する体制が確立している。</p> <p><b>【評価結果】</b> 実施している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p><b>【意見】</b> 本プログラムでは、各科目に対する授業内容に関する評価と学生の理解度の尺度として、本校授業アンケートを利用している(別紙補足資料1参照)。今年度については、本プログラムの構成科目の全平均点が全ての項目で4点(5点満点)を超えることを都市工学科学科会議にて確認し、同学科内の数理・データサイエンス・AI教育支援部会と学校全体の数理・データサイエンス・AI教育専門部会とで情報を共有し、今後に関する改善案を提案し、教務委員会に引き継いでいる。</p> <p><b>【評価結果】</b> 実施している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p><b>【意見】</b> 本プログラムを構成している科目は全て必修科目として開講しているため、後輩等、他の学生への推薦度に関する項目については、該当しない。</p> <p><b>【評価結果】</b> 本項目は、本プログラムに該当しないため、評価は行っていない。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p><b>【意見】</b> 本プログラムは、都市工学科全学生(除く、編入学生)が対象となる。また、本プログラムの構成科目は、1年次～5年次までの必修科目のみで構成されているため、休学などの理由で不履修となる学生を除いて、令和8年度には全ての学生が本プログラムを100%履修することになる。なお、現時点では、令和4年度以降の入学者の合計171名が履修している状態である。これについては、令和4～6年度で開講されている1年次と2年次の構成科目と内容については、同じであるため、令和4,5年度の学生も履修生としている。</p> <p><b>【評価結果】</b> 順調に実施できている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p><b>【意見】</b> 本プログラムは、開始したところであり、修了する学生が出るのは令和8年度終了時になる。そのため、修了者の進路や活動状況については、現在のところ該当しない。本校では、卒業生に向けてのアンケートを実施しているため、修了者の活躍状況については、そのアンケートを実施することで確認する予定である。また、企業等の評価については、適宜就職先へのアンケートなどを行うことで確認する予定である。</p> <p><b>【評価結果】</b> 履修者の修了生が出ていないため、まだ実施は出来ていないが今後の予定としては、策定されている。今後アンケート実施方法などを詰めていく必要がある。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p><b>【意見】</b> 本プログラムはまだ履修段階であるが、2024年2月に225社に対して行った本校のアンケート結果において、98%を超える企業において、実践的な高度情報人財が必要であるという回答を得ており、大きな期待が寄せられている(別紙補足資料2参照)。このような背景から、都市工学分野の知識を有し、その知識をベースとして数理・データサイエンス・AIの情報技術も活用できるデジタル人財(専門分野×情報技術)を育成することを目指し、「都市工学実験実習(5年)」の講義内容の一部を見直した。さらに、後半の演習では数名のチームを組ませて具体案を検討し発表することで、コミュニケーション能力や説明力の育成も意識している。</p> <p><b>【評価内容】</b> 実施できている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p><b>【意見】</b> 本教育プログラムでは、低学年時は楽しく学べるように分かりやすく楽しく学べるようオリジナルの教材を提供している。また、アニメーション作品の中に含まれるエピソードと関連づけて説明するなど学生の興味を引き工夫をしている(情報基礎)。さらに、都市工学分野における様々なデータの取得方法とその処理方法に関する授業を展開することで、工学への展開も意識づけし、学ぶことの意義を伝えている。これらの授業内容は授業アンケートを用いて理解度などを確認し、学生がモチベーションを維持しながら技術や手法の重要性や実践的な活用方法を意識させながら学べるように改善を行っている。</p> <p><b>【評価結果】</b> 実施している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	<p><b>【意見】</b> 本校では、自己評価委員会を中心に、授業アンケートを、通年科目においては、前期、後期の2回、半期科目においては、それぞれ授業終了後に実施している。通年科目においては、前期の授業アンケートを参考にしつつ、後期授業へのフィードバックを行っている。これらの内容は都市工学科 数理・データサイエンス・AI教育支援部会から提案を行っている(別紙補足資料2参照)。</p> <p><b>【評価結果】</b> 実施している。</p>